

2023年10月22日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第66巻第29号(通算3361号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう 週報

教会標語

かみさまがすべてのひととともにおられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

しゅうかくかんしゃれいはい

収穫感謝礼拝



せいれいこうりんせつ だい しゅうじつれいはい
(聖霊降臨節 第22主日礼拝)



《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしやうめつ
前奏 黙祷 AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば へん せつ
招きの詞 詩編 78編 2-4節

さんび か ばん こころ たか ちよさくけんしやうめつ
賛美歌 21-18番「心を高くあげよ！」(©著作権消滅)

せいしょ ふういんしやう しょう せつ
聖書 ルカによる福音書 19章 11-27節

いの
お祈り

さんび か かいていばん ばん きやうだんしゅうばんきやく
賛美歌 どもさんびか改訂版102番「わたしたちのたべるもの」(©教団出版局)

メッセージ「賜物を活かす」 うちだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

さんび か ばん しゅう まね こえ (©JASRAC)
賛美歌 21-516番「主の招く声が」

しゅう いの ばん てん ちち きやうだんさんびかかいていいんかい
主の祈り 62番「天にいます わたしたちの父」(©教団讃美歌改訂委員会)

ささげもの
献げ物 (*)

はけん ばん かみ めぐ う せつ (©JASRAC)
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)

しゅうくふく うちだ ただし ぼくし
祝福 牛田 匡 牧師

こうそう ばん きやうだんさんびかいいんかい
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讃美歌委員会)

ほうこく ページ さんしやう
報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

*「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ しょうい かた ささ
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

- ² 私は口を開いてたとえを語り／いにしえから隠されていたことを告げよう。
³ これは私たちが聞いて知ったこと／先祖が語り伝えたこと。
⁴ これを子孫に隠すことなく／主の誉れと力を／主がなされた奇しき業を／
後の世代に語り伝えよう。

聖書 ルカによる福音書 19 章 11-27 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹¹ 人々がこれらのことに聞き入っていると、イエスは続けて一つのたとえを話された。ご自身がエルサレムに近づいて ^a 来られたのに、人々は神の国がすぐにも現れるものと思っていたからである。¹² それで、イエスは言われた。「ある身分の高い人が、王の位を受けて帰るために、遠い国へと旅立つことになった。¹³ そこで、十人の ^{しもべ} 僕を呼んで十ムナの金を渡し、『私が帰って来るまで、これで商売をきなさい』と言った。¹⁴ しかし、その国の市民は彼を憎んでいたので、後から使者を送り、『我々はこの人を王に ^{いただ} 戴きたくない』と言わせた。¹⁵ さて、彼が王の位を受けて帰って来ると、金を渡しておいた ^{しもべ} 僕を呼んで来させ、どれだけ利益を上げたかを知ろうとした。¹⁶ 最初の者が進み出て、『ご主人様、あなたの一ムナで十ムナもうけました』と言った。¹⁷ 主人は言った。『よくやった。良い ^{しもべ} 僕だ。お前はごく小さなことに忠実だったから、十の町を支配させよう。』¹⁸ 二番目の者が来て、『ご主人様、あなたの一ムナで五ムナ稼ぎました』と言った。¹⁹ 主人は、『お前は五つの町を治めよ』と言った。²⁰ また、ほかの者が来て言った。『ご主人様、これがあなたの一ムナです。布に包んでしまっておきました。²¹ あなたは預けなかったものを取り立て、^ま 蒔かなかったものも刈り取られる厳しい方なので、恐ろしかったです。』²² 主人は言った。『悪い ^{しもべ} 僕だ。その言葉のゆえにお前を裁こう。私が預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものも刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。』²³ ではなぜ、私の金を ^b 銀行に預けなかったのか。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きでそれを受け取れたのに。』²⁴ そして、そばに立っていた人々に言った。『その一ムナをこの男から取り上げて、十ムナ持っている者に与えよ。』²⁵ ^{しもべ} 僕たちが、『ご主人様、あの人はすでに十ムナ持っています』と言うと、²⁶ 主人は言った。『言っておくが、誰でも持っている人は、さらに与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる。』²⁷ ところで、私が王になるのを望まなかったあの敵どもを、ここに引き出して、私の目の前で打ち殺せ。』

(脚注 a: 別訳「来られ、また」、b: 直訳「両替人」)

《先週のメッセージより》10月15日メッセージ

「天国はどこにありますか」より

牛田匡牧師

聖書 ルカによる福音書 17章20-37節

「人は死んだらどうなるの？」という質問に対し、「天国に行くんだよ」と答えることは少なくないのではないかと思います。そこで想像している「天国」とはどのようなイメージでしょうか。きっと美しく穏やかな楽園のイメージではないでしょうか。それは言い換えれば、いつの時代でも人間が生きている現実世界が、自然災害や戦争、また貧困や差別、圧政などの様々な困難にあふれているからこそ、「死んだ後にはそれらから解放されて楽になりたい」という願いが形となったものかもしれません。それは今から約2000年前のイエス様の時代も同様でした。古代ローマ帝国の暴力によって支配されていた人々は重税に苦しめられ、生産物のほとんどを取り上げられていました。そのような厳しい生活から解放され、皇帝の支配ではなく、神の支配（神の国）が到来することを人々は待ち望んでいました。今の世界が終わりを迎え、神の国（天の国）が実現するには、どのような予兆があるか、また神の国はどこにやってくるのか、人々はイエス様に質問しました。しかし、イエス様の答えは、期待していたものとは異なりました。

何か普段とは違うことが起きると、それは世界が変化する予兆だと考えられましたので、人々は夜空に彗星が見えないかとか、地震が起きないかとか、様々なことを観察していたと思われませんが、イエス様は「神の国は観察できるような仕方では来ない。また『ここにある』とか、『あそこにある』と言えるものでもない」「もうすでに来ている。あなた方の中、すなわち私たちの中にもう来ている」と言われました。例えば、日々の農作業の中で、畑に蒔いた種が発芽し、生長して、やがて実を結ぶ命の不思議、そのような現実それ自体が、まさに神様の働き無しには決してあり得ないことであり、神様の支配、神様の力の及んでいる世界そのものではないか、ということです。「天」というと空の上を連想するかと思います。「天」とは、遥か上空、宇宙空間のどこかという意味ではなく、「目に見えない神様の働かれている所」という意味です。命の創り主である神様は、生きとし生けるもの全ての命と共に在ります。また造られたこの世界の全ては神様の存在を示しています（詩編19編）。神様の力、働きの及ばない所はどこにもありません。神の国は私たちの間に、足下にもう来ています。そのことを覚えて、隣り人と共に今日も歩みを進めていきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 (10月15日)

礼拝出席 大人4名 献金 大人4,000円 中継視聴者数9回 感謝

◎次週 2023年10月29日(日) 降誕前節第9主日礼拝

招きの詞 詩編 104編 24節

聖書 ヨハネによる福音書 1章 1-14節

メッセージ「私たちはここにいる」牛田匡牧師

賛美歌 世の初め鳥のように (©JASRAC)、21-223 (©改訂委)、21-514 (©P.D.)

礼拝の中で、今年度10月までにお生まれの方々の誕生者祝福式を行います。



◎お知らせ

- ・本日の「収穫感謝礼拝」の中で収穫物は、釜ヶ崎支援のために、いこい食堂に献品致します。礼拝後には、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」も行い、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもご参加ください。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。感染症予防のためなど、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。
- ・来月11月は「愛児祝福月間」です。礼拝の中で「愛児祝福式」を行います。小さい子どもたちもどうぞご一緒にご参加ください。また11月5日は「召天者記念礼拝」です。ご家族やご友人など先に天に召された方々のお写真をお持ちになって、ご参加ください。
- ・11月3日(金・祝)14時~16時に、大阪YWCA(梅田)本館2階ホールにて、児童精神科医の夏苺郁子氏の講演会「私たちは悪の凡庸さを越えられるのか?」が開催されます(主催・大阪教区心なごむ会)。参加費は300円です。梅田駅から東へ徒歩約10分、地下鉄堺筋線扇町駅から西へ徒歩約5分。
- ・11月3日(金・祝)14時~16時に、阿倍野教会にて、大阪教区社会委員会主催の集会「宣教について考える。地域の子どもに目を向けて」が開催されます。講師は吉田正義さん(社会福祉法人育徳園)です。申込不要・参加費無料です。阪堺電車松虫駅から徒歩5分、地下鉄阿倍野駅から徒歩10分。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
10/29	牛田牧師	誕生者祝福式
11/5	水谷牧師	(愛児祝福月間)教会を考える会? 召天者記念礼拝・聖餐式 13時半~ 王寺墓地墓前礼拝(牛田) 15時~ 敬老ホーム「第二好意の庭」 永眠者記念礼拝(牛田)
11/12	牛田牧師	(愛児祝福月間) 15時~王寺墓地、教区墓前礼拝(牛田)
11/19	水谷牧師	

日本基督教団大阪教区 社会委員会主催

宣教について考える

地域の子どもに目を向けて

11.3 (金・休)
14:00-16:00

近年、子どもを取り巻く問題が深刻さを増しています。貧困や孤立、ヤングケアラー、外国籍の子どもたちをめぐる課題があります。また、これらの課題に取り組むためには、その背景にある社会の構造にも目を向けることも大切です。社会から置き去りにされている子どもたちに目を向ける時、それぞれの教会が建てられた地域への宣教のかたちを見出していけるのではないのでしょうか。講師の吉田さんのお話をおとして、この時代の宣教のかたちを考えてみたいと願っています。

講師 吉田 正義さん **会場** 日本基督教団 阿倍野教会

社会福祉法人育徳園にて38年勤務。
非営利活動法人 子育て運動 えん
事務局員として2年勤務。
現在、石井記念愛染園 愛染橋保育園・
児童館にて主任として勤務。

大阪市阿倍野区阿倍野5丁目13-17
◇阪堺電軌上町線松虫駅から徒歩5分
◇地下鉄谷町線阿倍野駅から徒歩10分

申込不要・参加費無料です。
多くの方々の参加を心からお待ちしております。